



図3 縫合不全（胃全摘術後）

- a. 胃体中部の2型進行胃癌を認め、腹腔鏡下胃全摘手術を施行した。
- b. 術後4日目に吻合部に縫合不全による巨大な瘻孔を認めた。
- c. PGAシートの充填・被覆を行った。
- d. 被覆後22日目にもPGAは残存かつ肉芽の増殖によりPGAシートが盛り上がってきた。
- e. 被覆後40日目にはPGAは消失していたが、瘻孔は消失し潰瘍となっていた。



図4 遅発性穿孔（十二指腸）

- a. 十二指腸下行部に認めた早期十二指腸癌（cType 0-IIa）
- b. 同病変に対してESD施行し一括切除した。特に術中の偶発症は認めなかった。
- c. 術後4日目に同部に筋層ごと脱落する巨大な遅発性穿孔を認めた。
- d. 穿孔部は巨大であり、その内腔には後腹膜の壊死物質が存在していた。
- e. PGAの充填被覆後60日目の内視鏡画像。徐々に穿孔部は組織が再生し、肉芽が生じている。PGAシートも一部残存している。
- f. 遅発性穿孔後124日目には完全に穿孔は閉鎖された。